

## I 研究の概要

### 1 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科別の指導の授業づくり

(2年次／2か年計画)

### 2 研究主題の設定理由

本校のこれまでの研究を通して築いた教育課程編成の「仕組み」を生かし、教育活動の計画、実践、評価、改善に取り組んでいる。仕組みの運用が定着してきたことにより、教育理念「拓く」から日々の授業までのつながりが意識された実践がなされるようになってきた。

また、平成29年度及び30年度の2年間は、研究主題「社会に開かれた教育課程編成の在り方」のもと、地域との目標共有や「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた学習過程の改善に取り組んできた。

地域と目標を共有した授業実践においては、単に地域に出て活動するのではなく、その活動を通して児童生徒のどのような資質・能力の育成を図りたいのかを地域の人たちと話し合い、確認した。お互いの考えを伝え合い、共に意見を出し合いながら学習活動や単元構成等を検討・改善してきたことで、お互いに必要とする、必要とされる関係となってきた。

「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた学習過程の改善においては、「あきたの探求型授業」について研修し、実践を重ねた。普通小・中学校の授業の進め方をそのまま取り入れることはできないものの、特別支援学校の指導においても参考にできることが多く、本校では特に、児童生徒がお互いの考えを伝え合う授業展開の方法や教室環境の工夫を取り入れ、授業改善につなげた。児童生徒の実態に応じた取り入れ方の工夫・検討を行ったことで、授業展開や教師の発問、板書計画などが変化し、授業改善や児童生徒の変容へもつながってきている。

このように、これまでの研究の成果を生かし、本校の教育理念から日々の授業までのつながりを意識した教育活動を実践することで、地域の人的・物的資源を活用した学習活動の取り入れや単元構成などがなされ、特に、各教科等を合わせて行う指導において、授業の質が高まってきた。このことは「教科別の指導」の改善や充実も図られてきていると言い換えることができるはずである。しかし、実践を重ねてきた職員からは、「今指導していることが、どの教科の、どの部分と関連しているのか分からない」「今指導している内容が間違っていないか不安を感じている」などの意見が寄せられ、教科別の指導に対する自信のなさが伺われた。

そこで昨年度は、「主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科の授業づくり」を主題とし、研究に取り組んだ。各教科別の指導に関する内容等を再確認すること、その上で実践を積み重ねていくことを通し、各教科別の指導に対する教師の理解を深めた結果、「教科別の指導においても、子どもたちの実態把握が大事なことを再確認した」「実態差のある集団の学習でも、子どもたち一人一人に学びがあるように授業の構成や活動を考えるようになった」など、自分たちの指導にも自信をもち始めてきている。しかし、学んだことがどのような場面で生かしているのか、本当に身に付いているのかを評価し、改善していくことには、さらに力を入れていく必要があるという課題が残った。そのため、昨年度の実践の成果を生かしながら実践を重ねることを通し、的確な学習評価を実施し、学んだことを生きて働く知識としていきたいと考え、本年度の研究主題を設定した。

研究2年次の到達目標 : 1年次の研究で明らかとなった有効な手立てを生かし、授業実践を行う。その上で、児童生徒の分かったこと、できるようになったことを様々な学習へとつなげていく工夫を検討する。

### 3 研究の目的

- ア 児童生徒の学び方の特徴に注目し、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行う。
- イ 物的環境（教材・教具や補助具の工夫、ICT 機器等の活用等）や人的環境（発問、教師の役割分担等）の工夫改善により、児童生徒の学習課題に向かう意欲や学び合いを促し、学習内容の理解度を高める。
- ウ 各教科別の指導についての理解を深めるとともに、各教科別の指導で学んだこと（内容や学び方など）を他の学習場面や生活場面へとつなげ、活用を図る。

### 4 研究仮説

各教科別の指導における学習過程や学習計画の工夫、学びを振り返ることのできる環境設定などを行いながら、授業改善を行う。その際、各教科別の指導で学んだことと他の学習との関連を図りながら、学習活動の評価・改善を積み重ねる。このことにより、児童生徒に分かったこと、できるようになったことを実感し、生かしながら学習に取り組もうとする力が身に付けられるであろう。

### 5 研究内容・方法

今年度の実践では、昨年度の実践から明らかとなった有効な手立て、

- 複数名で行う児童生徒の的確な実態把握
- 児童生徒の中心的課題の整理・確認・共通理解
- 「教科別の指導」の内容の確認

を生かしながら実践を積み重ねるとともに、以下のことを実践していく。

#### （1）「教科別の指導」に焦点を当てた授業づくり

##### 【計画】

- ア 教育課程コーディネーターを交えた単元・題材検討、授業づくり
  - ・各教科別の指導のねらいや目標を意識した単元構成や授業展開の検討
  - ・児童生徒が見通しをもって取り組める学習活動の検討と実施
  - ・教科等横断的な視点での学習内容の組立
  - ・学習指導案の作成と、3観点での目標の立案

##### 【実践】

- ア 児童生徒が分かったこと、できたことを実感し、生かそうとする姿を育む授業実践
  - ・振り返りの充実
    - ～学んだことと考えたことを結び付け、思考を再構築する学習活動の取り入れ
  - ・学んだことを活用する場面の設定
  - ・児童生徒が対話を通して考え、表現しながら学び合う学習過程の設定
    - ～課題との対話、物との対話等も含め、発達段階に応じた対話方法の検討
- イ 児童生徒一人一人の学び方に応じた支援方法・教材の工夫
  - 物的側面からの工夫
    - ・学習活動の流れや過程が見える、板書、掲示、教室環境等の工夫
    - ・手話やサイン、ICT機器の活用等、意思表示を促すための教材教具の工夫
  - 人的側面からの工夫
    - ・校内外の人材（教育課程コーディネーター、教育専門監、地域の先生、関連機関等）との連携や活用

○学習活動の側面からの工夫

- ・体験的な学習の取り入れや言語活動等の拡充

ウ 「ミニマムスタンダード」を活用した授業実践と改善

エ 授業研究会の実施

- ・3回の、全校授業研究会の実施と研究協議会の実施  
※今年度の研究対象 小学部：国語科 中学部：保健体育科 高等部：職業科
- ・研究協議会での授業の評価と改善案の検討、改善授業の実施
- ・部内授業研究会の実施

(2) 児童生徒の学びや変容に基づいた評価と授業改善

【評価・改善に向けた再検討・実践】

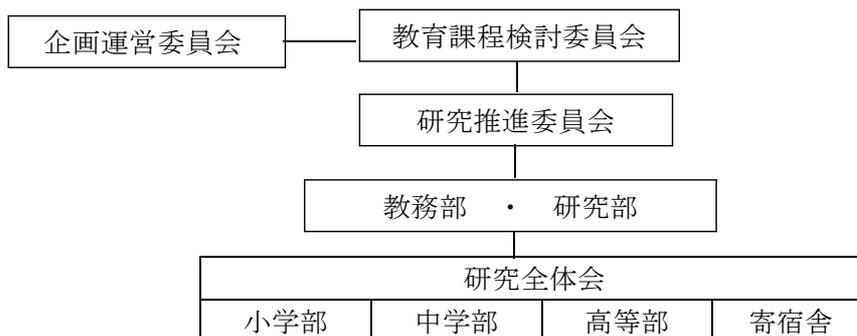
ア 学習活動を通じた、児童生徒の学びや変容の評価と改善

- 〈児童生徒の学びを評価〉
- ・授業のまとめ時の振り返りシートの活用と積み重ね
  - ・各グループからの抽出児童生徒の設定と、抽出児童生徒の変容の評価（中間評価・年間評価）

- 〈教師間での授業評価〉
- ・児童生徒の様子に基づき、何を学んでいたか、つまづいていたかを分析する評価シート（記録）の活用
  - ・短い期間（単元終了ごと）での、児童生徒の変容の評価検討会の実施
  - ・授業参観の視点を示した評価シートの活用
  - ・VTRでの記録・分析

イ 評価に基づいた授業改善と指導で有効だった手立ての共有、改善授業研の実施

1 研究組織



教育課程検討委員会：校長・教頭・学部主事・主任寄宿舎指導員・分掌主任・各学部研究リーダー

研究推進委員会：校長・教頭・学部主事・教育課程コーディネーター※  
研究部・寄宿舎研究担当

※教育課程コーディネーター：各学部の指導計画の立案や実施に当たり、学校目標や学部目標とのつながりを学級担任等に助言したり、地域の活用の有効性を伝え調整したりする。

## 7 研究計画

	実施時		実施内容
第 二 年 次	4月	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程コーディネーター会</li> <li>・研究推進委員会</li> <li>・研究全体会</li> </ul> ・今年度の研究の方向性と実施内容の共通理解 <b>【教務部と連携して】</b> ・一人一人の中心的課題の確認・各教科・領域等の年計のつながりの確認 他
	5月～	実践①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研</li> <li>・単元・題材検討会</li> <li>・見合う会の実施</li> <li>・指導主事計画訪問</li> </ul> ・研究主題に基づいた授業づくりの実践 ・本年度の研究領域となる教科の検討 ・本年度の主となる単元・題材の検討 他
	7・8月	中間評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研</li> <li>・単元・題材評価の会</li> </ul> ・7月までの実践についての評価と今後の取組について
	9月～	実践②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研</li> <li>・単元・題材検討会</li> <li>・見合う会の実施</li> <li>・全校授業研究会</li> </ul> ・授業づくりに向けた単元構成や授業の展開の検討等
	12月	実践の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研</li> <li>・単元・題材検討会</li> <li>・教育課程コーディネーター会</li> </ul> ・今年度の実践についての評価と今後の取組について ・次年度の教育課程編成に向けて
	1・2・3月	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研</li> <li>・教育課程検討委員</li> <li>・研究全体会</li> </ul> ・2年間の実践の成果と今後の取り組みについてのまとめ ・次年度の取組についての検討 ・教育課程の改善 等
<p>○各学部の教育課程コーディネーターと学級担任が定期的に教育課程編成の進捗状況を協議し、調整する。</p> <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数名で行う、児童生徒一人一人の実態把握と中心的課題の把握</li> <li>・個別の支援計画・個別の指導計画の立案と評価の協議</li> <li>・年間指導計画の協議</li> <li>・研究対象領域とした「教科別の指導」を中心とした題材検討</li> <li>・生活単元学習を中心とした「合わせた指導」の単元検討</li> <li>・「教科別の指導」と「合わせた指導」との関連付けの検討</li> <li>・授業研究会の授業づくりへの助言</li> </ul>			